

Ⅲ 資本等

1 資本金の状況

機構の資本金の状況は、次のとおりである。

区 分	令和6年度期首	増減額	令和6年度期末
畜産勘定	29,965,359,951円	—	29,965,359,951円
野菜勘定	260,739,653円	—	260,739,653円
肉用子牛勘定	328,562,593円	—	328,562,593円
合 計	30,554,662,197円	—	30,554,662,197円

2 財務の状況

(1) 会計処理

機構は、法人の財政状態及び運営状況を明らかにするため、独立行政法人会計基準に沿った会計処理を行っており、決算に係る財務諸表は、監事及び会計監査人による監査を受け、農林水産大臣から承認された後、機構ホームページに掲載するとともに、官報に公告し、かつ、各事務所において一般の閲覧に供している。

機構の会計は、業務ごとに経理を区分し、畜産勘定、補給金等勘定、野菜勘定、砂糖勘定、でん粉勘定及び肉用子牛勘定の6勘定を設けて整理している。

機構の各種業務を執行した結果、損益計算において利益が生じたときは、前事業年度から繰り越した損失を埋め、なお残余があるときは、その残余の額は、当該勘定において積立金として整理することになっている。一方、損益計算において損失が生じたときは、積立金を減額して整理し、なお不足があるときは、その不足額は、繰越欠損金として整理することになっている。

(2) 損益等

ア 畜産勘定

当勘定においては、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金の交付業務、畜産業振興事業に対する補助業務、畜産物に関する情報収集提供業務、畜産関係団体に対する出資に係る株式又は持分の管理業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、調整資金戻入益588億218万円、畜産業振興資金戻入益178億9476万6000円、運営費交付金収益6億1195万9000円、過年度補助事業費返還金及び投資評価引当金戻入益16億394万9000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益1億180万円、運用利息、雑益等4億6667万円を加えた794億9296万3000円で、費用が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費224億5007万1000円、畜産業振興事業費392億1841万8000円、情報収集提供事業費3億3346万7000円、肉用子牛勘定への業務財源繰入169億2471万4000円、これらに係る一般管理費等5億6131万5000円を加えた794億9068万4000円となったことから、当期利益は227万9000円を計上した。この結果、積立金1686万3000円となった。このほかに前中期目標期間繰越積立金8億6998万7000円がある。

調整資金の収支は、収入が、政府からの交付金491億5097万7000円、支出が、肉用

牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費217億4680万2000円、畜産業振興事業費198億1153万4000円、情報収集提供事業費1億6692万7000円、肉用子牛補給金等事業費169億1191万1000円、一般管理費1億6500万6000円であった。

一方、畜産業振興資金の収支は、収入が、政府からの交付金272億4593万1000円、生産者等からの拠出金57億8600万3000円、運用利息、雑益、過年度補助事業費返還金、調整資金運用利息等による収益の受入が18億2901万8000円、支出が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費5億4354万2000円、畜産業振興事業費191億5269万円のほか、これらに係る一般管理費等が3042万6000円であった。

令和6年度の畜産業振興事業は、酪農の経営安定対策等20項目の事業に対して補助金を交付するとともに、前年度以前に補助金として交付した畜産経営維持緊急支援資金融通事業、肉用牛肥育経営緊急支援事業、畜産経営力向上緊急支援リース事業、国産食肉流通合理化緊急支援資金事業及び肥育牛経営改善等緊急対策事業に係る返還金等38億7846万8000円については、不要財産として国庫納付した。

イ 補給金等勘定

当勘定においては、加工原料乳の生産者補給交付金等交付業務、輸入乳製品の売買業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、農畜産業振興対策交付金戻入益348億円、輸入乳製品売渡収入247億501万円に運用利息、雑益等2206万円を加えた595億2707万円で、費用が、加工原料乳生産者補給交付金等交付事業費378億7169万5000円、輸入乳製品買入費219億7804万5000円、これらに係る一般管理費等2億7535万9000円を加えた601億2509万9000円となったため、前中期目標期間繰越積立金5億9802万8000円を取り崩したことから、当期利益は0円となった。この結果、前中期目標期間繰越積立金は43億5724万1000円となった。

ウ 野菜勘定

当勘定においては、指定野菜価格安定対策事業、契約指定野菜安定供給事業、特定野菜等供給産地育成価格差補給事業、緊急需給調整事業、大規模契約栽培産地育成強化事業、野菜に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、野菜生産出荷安定資金戻入益54億244万2000円、大規模契約栽培産地育成強化事業補助金戻入益6億8885万4000円、運営費交付金収益6億6089万2000円、資産見返運営費交付金戻入等1537万円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益8650万2000円、運用利息、雑益等1億1543万2000円、過年度補助事業費返還金等171万3000円、前中期目標期間繰越積立金取崩額756万4000円を加えた69億7876万8000円で、費用が、野菜価格安定対策事業費53億2884万9000円、野菜農業振興事業費11億5805万3000円、情報収集提供事業費8002万円、これらに係る一般管理費等3億4885万円を加えた69億1577万1000円となったことから、5543万3000円の当期利益を計上した。この結果、積立金は1億2491万7000円となった。このほかに前中期目標期間繰越積立金は198万円がある。

野菜生産出荷安定資金の収支は、収入が、政府からの補助金40億5700万円、生産者等からの拠出金29億7083万9000円、繰入補填金3676万9000円、過年度補助事業費

返還金等166万2000円、支出が、交付金等54億410万4000円、負担金返戻5億3257万3000円であった。

エ 砂糖勘定

当勘定においては、輸入に係る指定糖の買入・売戻業務、異性化糖等の買入・売戻業務、輸入加糖調製品の買入・売戻業務、甘味資源作物の交付金交付業務、国内産糖の交付金交付業務、砂糖に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、糖価調整事業収入306億6075万8000円、甘味資源作物・国内産糖調整交付金戻入益等148億7584万4000円、運営費交付金収益9億1125万4000円、資産見返運営費交付金戻入等2282万6000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益9145万4000円、雑益等324万9000円を加えた465億6538万6000円で、費用が、糖価調整事業費412億4875万2000円、情報収集提供事業費8725万8000円、これらに係る一般管理費等6億7599万6000円を加えた420億1200万6000円となったことから、45億5338万円の当期利益を計上した。この結果、前期繰越欠損金676億5444万2000円と合わせて、繰越欠損金は631億106万2000円となった。

オ でん粉勘定

当勘定においては、輸入に係る指定でん粉等の買入・売戻業務、でん粉原料用いもの交付金交付業務、国内産いもでん粉の交付金交付業務、でん粉に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、でん粉価格調整事業収入90億1351万円、運営費交付金収益2億9792万7000円、資産見返運営費交付金戻入1057万円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益2030万5000円、雑益等41万3000円を加えた93億4272万5000円で、費用が、でん粉価格調整事業費92億5019万2000円、情報収集提供事業費2685万9000円、これらに係る一般管理費等1億3802万2000円を加えた94億1507万4000円となったため、7234万9000円の当期損失を計上したことから、前中期目標期間繰越積立金1億2583万8000円を取り崩した。この結果、積立金は2億6388万9000円となった。

カ 肉用子牛勘定

当勘定においては、肉用子牛の生産者補給交付金交付業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、畜産勘定から受け入れた業務財源169億2471万4000円、運営費交付金収益5113万7000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益711万9000円、運用利息及び雑益等400万4000円、過年度補助事業費返還金34万円を加えた169億8731万3000円で、費用が、肉用子牛生産者補給交付金146億3483万9000円、生産者積立助成金10億5909万8000円、これに係る業務費、業務委託費及び一般管理費等12億8995万2000円を加えた169億8388万8000円となったため、342万5000円の当期利益を計上した。この結果、利益剰余金は469万3000円となった。